

追加型投信／国内／株式

運用実績

基準価額 20,236円

前週比 ▲9円

純資産総額 2,754百万円

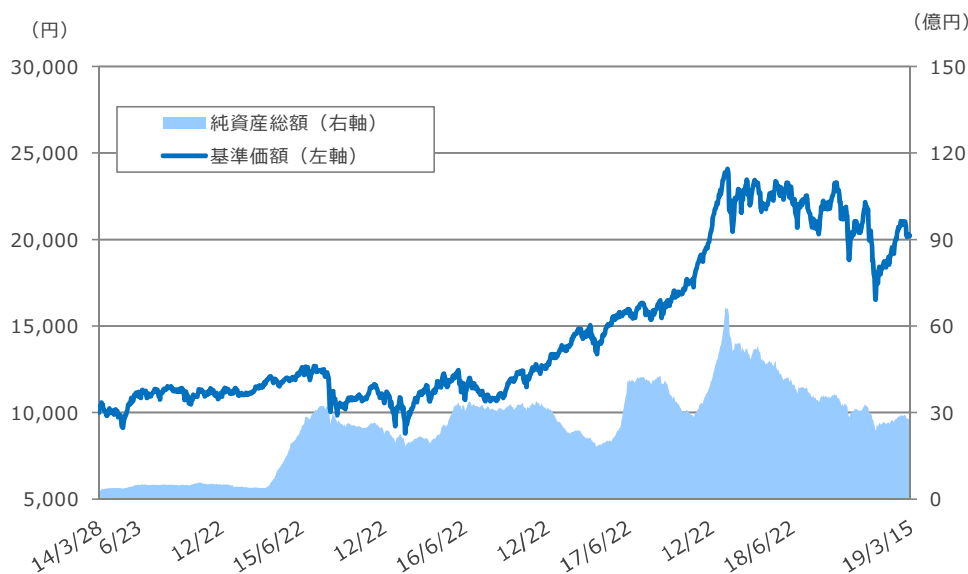
※基準価額は信託報酬控除後の値です。

※前週比は応答日が祝日等の場合には、前営業日のものとの比較を記載しています。

ハイ・ウォーター・マーク 22,970円

ファンド設定日：2014年3月28日

基準価額等の推移



※基準価額は信託報酬控除後の値です。

資産構成 (単位：百万円)

本ファンド	金額	比率
マザーファンド	2,723	98.9%
現金等	31	1.1%

マザーファンド	金額	比率
国内株式	16,730	97.9%
現金等	361	2.1%

※本ファンドは、小型成長株・マザーファンドを通じて実質的に株式に投資しています。
 ※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

期間収益率

設定来	1週間	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
102.4%	0.0%	0.9%	1.3%	-8.6%	-13.8%	80.9%	-

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものととして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

※応答日が祝日等の場合には、前営業日からの収益率を記載しています。

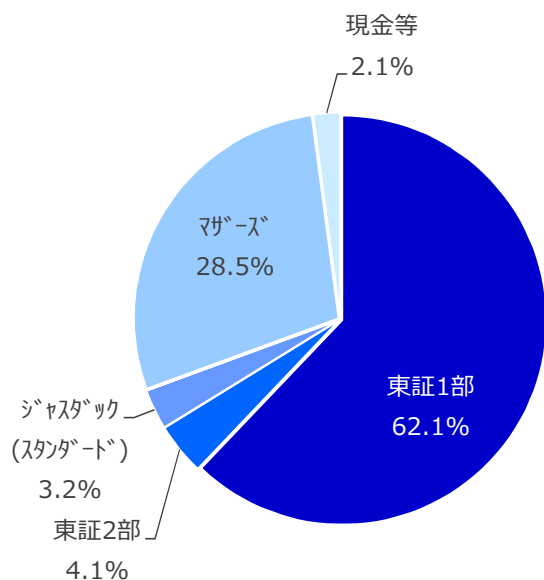
収益分配金 (税引前) 推移

決算期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	設定来累計
決算日	2016/12/22	2017/6/22	2017/12/22	2018/6/22	2018/12/25	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

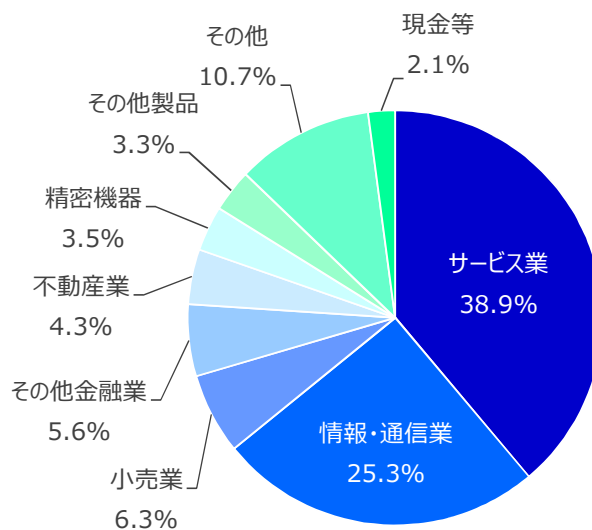
※収益分配金は1万口当たりの金額です。

マザーファンドの状況

市場別組入比率



業種別組入比率



組入上位10銘柄

	証券コード	銘柄名	市場区分	業種	比率
1	3926	オープンドア	東証1部	情報・通信業	3.8%
2	9416	ビジョン	東証1部	情報・通信業	3.6%
3	3939	カナミックネットワーク	東証1部	情報・通信業	3.6%
4	6544	ジャパンエレベーターサービスホールディングス	東証1部	サービス業	3.6%
5	6194	アトラエ	東証1部	サービス業	3.5%
6	7780	メニコン	東証1部	精密機器	3.5%
7	6200	インソース	東証1部	サービス業	3.5%
8	6089	ウィルグループ	東証1部	サービス業	3.3%
9	7816	スノーピーク	東証1部	その他製品	3.3%
10	6539	MS - J a p a n	東証1部	サービス業	3.3%

組入銘柄数

52銘柄

※組入比率はいずれもマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行っているため、マザーファンドの運用状況を表示しています。

投資助言会社からのコメント

活動メモ

自社業務の一部を外部に委託するアウトソーシングは、以前はコスト削減を目的とするケースが多かった印象ですが、最近は様相が変わってきています。上場企業の決算業務を支援するソフトウェアの開発を手掛ける企業が、数年前から決算業務そのものを受託する事業を始めましたが、足元では旺盛な需要に供給が追いつかない状況のようです。ひと昔前であれば、決算業務のような機密性の高い業務が外部に委託されることなど考えにくかったのですが、さまざまな制度変更によって上場企業の決算業務が複雑化・煩雑化しているうえ、昨今の人手不足で経理業務に精通した社員の育成が間に合わないことが背景にあります。また、上場企業における経理・財務部門の役割の広がりも無視できません。多くの上場企業がM&A（企業の合併・買収）を成長戦略の一環に掲げ、資金調達の方法も多様化しています。専門知識のある社員をこれら付加価値が高い業務に集中させて、定型業務は外部に任せるといった発想が、企業にとって合理的になってきたといえます。

このような視点で見渡すと、アウトソーシングによる効率化の余地は多々あり、業務を受託する企業の活躍の場はますます広がりそうです。一方で、独自の強みを持って業務を受託しないと、下請け的な付加価値の低いビジネスになりかねません。上記の決算業務の受託会社は、決算業務に関する自前のソフトウェアを持つことが強みになっています。また、ソフトウェア開発の一工程であるテストを受託する会社では、独自の教育システムで技術者を育成したり、独自の業務支援システムを活用して効率化を図ったりしています。消費者からの様々な問い合わせを、電話やメールで対応するコールセンター業務もアウトソーシングの一形態であり、ここでも地方拠点を活用して、優秀な人材を円滑に採用できている企業が強みを発揮しています。どれだけ需要が強い領域であっても、成長を約束する独自の強みを持つ企業であるか否かは、日々の調査で重視するところです。

組入銘柄のご紹介：～ティーケーピー（3479）～

今週は“空間再生流通企業”を標榜し、高成長を続けている「ティーケーピー」をご紹介します。主力の貸会議室事業は、245拠点・2,094室を国内外で展開しています（2018年11月現在）。同社は貸会議室事業をサービス業と位置づけ、多種多様な広さと設備（椅子・机・照明・音響など）を持つ会議室をそろえ、大規模なものでは企業の社員研修や株主総会、学習塾の夏期講習や模擬試験、学会や記者会見などが行われ、小規模なものでは近隣にある企業が必要に応じて利用するという具合に、年間約2.4万社が幅広い用途で利用しています（2018年2月期）。2018年2月期の売上の85%は既存顧客によるリピート利用となっていることから、その満足度の高さがうかがえます。

近年では、オフィスビル以外でも同社の活躍の場が広がってきています。例えば、不稼働資産・遊休資産となっているホテルや保養所・研修所の再活用や、都市部でのビジネスホテル運営によって、企業の宿泊研修需要を取り込もうとしています。また、最近では大手家具販売店で余剰となった販売スペースを賃借して、商業ビルでの空間再生にも進出した点は注目できましよう。既存ビジネスとは異なり、商業ビルでは“商売する人に貸す”ことが可能なため、即売会、催事場、臨時店舗などに利用用途が広がることとなります。

新たな取り組みとして、月極賃貸オフィス市場への挑戦を打ち出しています。日本の賃貸オフィス市場はそのほとんどが3年以上の長期契約となっていますが、スタートアップ企業や大企業のサテライト拠点向けなどを中心に、短期～中期での賃貸に対する需要が高まりつつあります。同社では、契約期間や契約面積が流動的なオフィスを提供するとともに、価格変動制の導入も合わせて検討しており、顧客に提供する価値の最大化を目指していく方針です。「TKP＝トータル空間プロデュース」の社名の通り、今後も空間再生の事業領域を広げながら同社の積極的な展開が続きます。

※本ファンドのマザーファンドに助言しているエンジェルジャパン・アセットマネジメントからのコメントです。

※ご紹介する企業はファンドのコンセプトをご理解いただくためのものであり、個別企業の推奨をする目的ではありません。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

本ファンドは、小型成長株・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

ファンドの特色

- マザーファンド受益証券への投資を通じて新規公開という、いわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」に厳選投資します。
- エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社より投資に関する助言を受けて運用します。
- 本ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行い、マザーファンドを通じて実質的に日本の株式に投資を行います。

投資リスク

基準価額の変動要因

本ファンドは、マザーファンド受益証券を通じて主に国内株式を投資対象としています。株式等値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に投資する中小型株式等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

主な変動要因

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して変動します。本ファンドは株式の価格が下落した場合には、基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
流動性リスク	株式を売却あるいは取得しようとする際に、十分な流動性の下での取引を行えず、市場実勢から期待される価格で売れない可能性があります。この場合、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
信用リスク	投資した企業や取引先等の経営・財務状況が悪化するまたは悪化が予想される場合等により、株式の価格が下落した場合には基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。

その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。

お申込みメモ

購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額（ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降のお支払いとなります。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 ※受付時間は販売会社によって異なることでもありますのでご注意ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限（設定日：2014年3月28日）
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	年2回（原則として6月と12月の各22日。休業日の場合は翌営業日。）
収益分配	年2回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。

本資料のご留意点

- 本資料は、SBI アセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。
- 投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
- 投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。
- お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込金額に3.24%（税抜：3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た金額とします。詳細は販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に0.3%を乗じて得た額とします。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	信託報酬の総額は、下記①の基本報酬と②の実績報酬を加算した額とします。	
	①基本報酬 ファンドの日々の純資産総額に年1.458%（税抜：年1.35%）を乗じて得た額とします。	
	運用管理費用（信託報酬）	年1.458%（税抜：年1.35%）
	内	
	委託会社	年0.864%（税抜：年0.80%）
	販売会社	年0.540%（税抜：年0.50%）
	訳 受託会社	年0.054%（税抜：年0.05%）
	※委託会社の報酬より、投資顧問（助言）会社への報酬が支払われます。	
	②実績報酬 本ファンドは信託報酬に加えて、ハイ・ウォーター・マーク方式による実績報酬を受領します。 [実績報酬算出日の決算前基準価額 ^{※1} - ハイ・ウォーター・マーク] × 受益権総口数 / 1万 × 12.96%（税込） ^{※2}	
	※1 決算前基準価額については以下参照。 毎計算期末において、当該日の1万口当たり基準価額（実績報酬控除前の1万口当たり基準価額（「決算前基準価額」））がその時点のハイ・ウォーター・マークを上回った場合は、翌営業日以降のハイ・ウォーター・マークは、当該基準価額に変更されます。なお、当該信託報酬は、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。	
	※2 投資者の皆様のコスト負担を軽減するため、平成29年9月22日付で実績報酬率を21.6%（税込）から12.96%（税込）へ引下げました。	
その他費用 及び手数料	ファンドの監査費用、有価証券売買時にかかる売買委託手数料、信託事務の処理等に要する諸費用、開示書類等の作成費用等（有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等）が信託財産から差引かれます。 ※ これらの費用は、監査費用を除き運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。	

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他関係法人

委託会社	SBI アセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）

追加型投信／国内／株式

販売会社一覧

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第44号	○	○		○
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第131号	○	○		
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商) 第20号	○			
株式会社静岡銀行*	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第5号	○	○		
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第61号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○
三田証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第175号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第164号	○	○		

■ 販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

* 株式会社静岡銀行では、インターネットのみの取扱いです。

ファンドのご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。